

研究奨励賞	JWSTを使った最遠方銀河探査	播金優一	144
EUREKA	重力崩壊型超新星コア内部におけるニュートリノ集団振動	赤穂龍一郎	158
天球儀	ウィキペディアから天文を普及する ～ウィキペディア天文関連記事の編集活動	小林道生	168
	電波天文の観測環境を守る ～世界無線通信会議2023参加報告～	平松正顕	177
雑報	日本天文学会早川幸男基金による渡航報告書 <i>IXPO: International X-ray POLarimetry Symposium</i>	二之湯開登	186
	日本天文学会早川幸男基金による渡航報告書 <i>Astrophysics and Space Science in Marche I</i>	Zhaoxuan Liu	188
書評	暗い夜空のパラドックスから宇宙を見る	富井耀	190
月報だより			191

【表紙画像説明】

拡大図の中心にある赤い天体が、JWSTにより発見され、分光同定された赤方偏移 $z=11.04$ （134 億年前）の銀河 CEERS2_588. このような明るい銀河が $z=10$ を超える宇宙で多く見つかることは、JWST の打ち上げ前には予想されていなかった.

(クレジット：NASA, ESA, CSA, Harikane et al.)

【今月の表紙デザイン】

1610 年、ガリレオ・ガリレイが「土星」を観測. 土星の輪っかを「土星の耳」と表現したそうですが、同時に新たな「謎」が誕生した瞬間でもあったでしょう. その発見から今日までの長い時間経過を歯車で表現しました.